

報 告 書

開催日時	平成25年11月20日（水）午後6時30分～7時55分	
開催場所	市役所第3会議室	
出席議員	挨拶 菅原悟班長（総務常任委員会委員長）	
	司会進行	菅野 稔
	報告者	佐竹 強
	記録者	藤倉泰治
	議員	小松眞、千田勝治
参加人数	青年会議所、商工会青年部、市青協から6名参加	
懇談テーマ	子育て世代の就業について	
主な要望 ・提言等	<p>◎意見交換全体の状況</p> <p>「子育て世代の就業について」をテーマに、市内青年団体の役員の方々と懇談、6名に参加していただきました。</p> <p>被災地の青年の雇用状況、保育士や看護師の就職、子育てのための県立高田病院再建、消防団活動、障がい者のための観光地や、「こんなまちにしたい」というまちづくりについて、活発な発言や要望、提言があり、有意義な意見交換の場となった。</p> <p>◎若者の雇用問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用のミスマッチが言われているが、前の仕事とちがった職種のため定職になりきれない人もいるようだ。新しい仕事に長続きしない人もいた。 ・小さい子どもがいる人は仕事をして養わなければならない、市外に出て働いている人もいる。 ・一方で、就業意欲が減ったような人も見られる。 ・事業主として、求人出しているが、現実的には面接にも来ない状況だ。人手不足になっている。 ・ほんとうに意欲のある人は市外に出ているが、少ないが地元に残っている人もかなりいる。 ・パソコンなど世の中が進んで、そういう人がかっこいいというイメージもあるのではないか。肉体労働は自分の仕事としてどうかと考えるのかもしれない。 ・青年会活動については、仕事の仲間で青年会に入っているようなこ 	

とはないと思う。地区によっては休会のところもあるが、復活してきたところも。

- ・長部の水産加工団地では人が集まらない。
- ・雇用のミスマッチのことがいわれるが、実際に、仕事につかないでいる人はどうやって生活しているのか。仕事をしなくても生活ができるのか、そのへんも知りたい。自営業の場合、仕事をしなければ家族が食べていけない厳しさがある。
- ・ある企業では、今募集をかけているが集まらない。あとになってせっぱつまって働きたいと言っても、うちの会社ではその時は雇わない考えの会社もある。
- ・お金を手にした人もいて、今は働かなくてもいいが、2年3年後に問題が出てくると思う。以前はアパートにいた人も仮設にいて金もかからない。仮設で手厚い保護を受けている人もいるようだ。就業意欲を失っているようだ。
- ・人手がほしいがなかなか来ない。人が必要だ。職を選び働かない人が多い。また、求人の方でも働く場所について周知徹底しているのか。市外の人で陸前高田に来て働きたいという人も出てきている。陸前高田で働くいいチャンスなのに逃していると思う。本設をめざしているので、何とか人も設備も要る。早く市街地を形成してほしい。商工会も議会も動いてほしい。
- ・市外の人にも仕事のことなど伝わるようにしてほしい。住むところも仮設住宅の活用など考えてほしい。規制もあると思うが変えてほしい。

◎子育てに関して

- ・日曜日も自営業の仕事を家族でやっているのので、日曜日も子どもを預かってくれるところがあれば助かる。市内の保育施設で1か所でも預けられれば、とくに女性やパートなどの人は助かると思う。
- ・保育士について、市内でも学校を卒業して資格も取った人で、地元では正規採用になれないので、東京のほうの保育園に就職した話も聞く。
- ・保育施設は、保育士が足りなくて、子どもを受け入れられない実態になっているようだ。臨時職員が多いようだが、地元で働けるようにできないのか。
- ・看護師の職種も人手不足。学童の指導員は資格がなくてもできるが、保育士や看護師は資格が必要であり、資格を取った人は地元で就職できるようにならないか。

・県立高田病院が再建されるようだが、日曜とか治療できないと聞く。県医療局との話し合いでは、再建される高田病院は救急などは何もしてくれないという話だった。大船渡病院に行かざるをえない。再建される高田病院が第1の頼りだ。せっかく再建されるのだから、救急はもちろん最低でも問診はできるようにできないのか。

◎新しい商店街、まちづくりについて

・商工会では被災した600事業所のうち約半分くらいが再開したが、廃業も多い。

・商工会の会合で、商店街に戻りたいという声があるが、どこも商店街は下降気味になっている。これからグループ補助金の制度などもつかって再開すると思うが、長い目で見て将来の不安もある。震災前も、シャッター通りだった。その頃もけっこうきびしい状況だったと思う。やる気を持つことはいいが、グループ補助金使っても商店街を維持できるのか。

・かさ上げがいつになるのかの不安もある。とくに商店街はどうなるのか。

・家族も失ったが、自分は返ってきて自営業の店を再開した。自分が好きな陸前高田のまちをもう一度つくりたいという思いだ。店を再開して子どもも家族も迎えられるようにしたい。学校はどうか、津波の心配はどうかなど、心配はいっぱいあるが、何とかいいまちにしたい。子どもたちに陸前高田のよさをわからせたい。そのためにもがんばりたい。復興には大変難しい課題も多いと聞くが、何としても早くすすめてほしい。

・七夕やお天王様のように、子どもが夜出て遊んでも安心できるようなまちをもう一度つくりたい。お祭りの復活は大事だ。

・小友の海上七夕も復活できないか。

・陸前高田のまちは、以前は、御菓子屋やケーキ屋が多かった。食堂や食べ物が内陸や他のまちからよく来ていた。食べ物の魅力も陸前高田の魅力だ。

・また、公友館（映画館）もあり、文化的な魅力もあった。

・陸前高田にしかないものを新しいまちづくりでつくっていくべきではないか。これまでやってきたことを新しいまちにつなげる必要がある。

◎消防団活動、避難路について

・津波警報で出動するが、「ここから下は乗り入れ禁止」と言っても、

	<p>突破してしまう人がある。学校に保護者が迎えに行くと言って、規制を破っていく人がある。震災後の学校では子どもを安全に保護するといっても、自分の家に乗せて帰りたいという人もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波警報の時の規制に対しても下に行く人は説明してもわからない人だと思うが、う回路や林道など別の道もわかっていない人が多い。 ・洞の沢地区や高田高校仮設など、一旦下に降りないと別のところに行けないような人たちもいる。そういう場合の通路の確保も大事だと思う。別のルートがう回路としても確保されていればいいのではないか。 ・高田高校仮設の場合、震災の時使った光照寺から高寿園に通じる山の中の道路は、整備して市道にすれば有効ではないか。 ・広田地区も孤立した。津波警報でも小友でストップになる。どこか長い時間待機できる場所として公民館など確保してほしい。情報や連絡が取れるような場所を確保してほしい。 <p>◎障がい者の人たちのためまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の整備、とくに一本松などの観光地の通路などの改善を望む。 ・市青協では、身障者のために、一本松までの通路の歩行などを疑似体験した。耳が聞こえなかったり目が見えなかったりして検証した。往復で1時間かかった。健常者でもけっこうきつく危ないと感じた。津波が実際に来る可能性もあるので、観光地として身障者の立場で考えてほしい。 <p>◎災害基金について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンでの台風被害など、いま全国全世界で大災害が起きているが、支援の募金の取り組みを進めるべきではないか。市として議会として何かできないのか。どこかで進めるようにできないか。大震災で多くの支援をうけた。そのことから他での災害の支援のために何かをしたいと思う。
<p>所 感</p>	<p>【菅原 悟】</p> <p>今回のテーマに沿った内容に関しては、日曜、祝日に子供を預けられる施設があればよいのだがという意見、また、求人情報を積極的に公開してはとの要望がなされた。そして当市における今後の緊急避難対応について様々な意見があり生活安全に対して特に重要性を感じた。</p> <p>【菅野 稔】</p> <p>青年会議所、青年団体協議会、商工会青年部の幹部の方々の出席をい</p>

ただきました。人数が少なかったが約1時間30分懇談がなされ、それぞれの立場で意見交換があり懇談会としては大変良かったと思います。

特に夫婦共稼ぎの場合、日曜日に子どもを預かっていただく施設等があれば安心して働けるとか、新高田病院の土・日の救急体制の必要性、高齢者や車イス利用者「キャップ・ハンディ体験」やグループ補助金で再建しても将来を考えると不安な方々がいるのではないかと生活再建の切実な思いを感じました。

【藤倉泰治】

青年団体との意見交換。雇用対策、子育て、まちづくり等、若者や現場の実態もリアルに話していただき、陸前高田市らしい魅力まちづくりの提言もたくさん提案された。今後の市の復興を進めるうえで、多くの若者や市民と徹底した話し合いの大事さを感じた。

【佐竹 強】

参加者が6名と低調感は否めなかった。

子育て世代であり切実な要望としては、土日に幼児を預かる施設が欲しいという意見には同感であった。

高田高校仮設住宅や洞の沢集落への通行には被災地を通行しなければ行けない状況で解決要望が出たが、安全なルートを考えなければならぬと実感した。この世代は地域の消防団員として活動している人もあり防災面での細かい配慮が必要である。

【小松 眞】

青年会議所、青年団体協議会、商工会青年部等の団体の代表者の6名の出席で、日曜保育の問題から、求人・求職のミスマッチ、労働意欲の低下等など多岐に亘る課題と活発な意見が多くあった。

特に、都市計画が進められ商工会を中心に商店街が計画されている市中核のまちづくりについて、商工青年部の一人の意見として、現在、農免道を中心とした高台に商店街が形成され商売も定着しつつあり、新しい商店街が形成された時に移行するには、財政面に於いても二重(再)投資となり困難に思えるとの意見があり、時間の経過とともに新たな課題を感じた。

また、ふる里陸前高田への想い、郷愁に変化が感じられるとの意見があった。陸前高田に住んだことのある人は、気候風土、歴史文化、人情など高田の素晴らしさを十分理解しており、市外に移住していても故郷に戻りたいと郷愁を持っているが、子供心に生れ故郷の良さの経験も無く移住してしまえば、ふる里高田の想いが薄れてしまい、戻りたいとの思いが少なくなれば、人口減少にも拍車が掛かるのではとの意見があり、復興までの時間の経過とともに、危機的な人口減少の課題と就業の

場の確保の道のりの遠さを感じた。

【千田勝治】

震災後、被災した他地域でも雇用のミスマッチが起きていると言われて
いるが、本市としても若者が安心して就労できる環境対策、特にも保
育の延長の預かり方や、学童クラブの充実等の必要性を感じた。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 殿

平成25年12月2日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成25年度議会報告会1班（総務班）

班 長 菅 原 悟

